

平成 28 年度「第 3 回仕事と介護の両立ワークショップ」開催報告

介護で人生をあきらめない

～介護暦 13 年現役の働く介護者が説く 介護離職から見たもの～

【日時】平成 28 年 10 月 13 日（木）18：00～20：00

【場所】長崎大学坂本キャンパス 良順会館専斎ホール

【講師】和氣 美枝 氏（ワーク&ケアバランス研究所主宰/
一般社団法人介護離職防止対策促進機構代表理事）



平成 28 年 10 月 13 日（木）坂本キャンパス良順会館専斎ホールにて、「第 3 回仕事と介護の両立ワークショップ」を開催いたしました。学内外から 43 名の参加がありました。

1. ご挨拶（副学長/ダイバーシティ推進センター長 伊東昌子教授）

最初に伊東センター長より挨拶がありました。昨年度から仕事と介護の両立ワークショップを開催していること、今年度は 3 回開催のうち本日が今年度最後の開催であること、また本学に介護コンシェルジュがいるということが少しずつ広がり、活動が活発になってきていることの説明がありました。

2. 講演（ワーク&ケアバランス研究所主宰/

一般社団法人介護離職防止対策促進機構代表理事 和氣美枝氏）

講演では、和氣先生より「介護で人生をあきらめない～介護暦 13 年現役の働く介護者が説く 介護離職から見たもの～」と題し、以下のお話がありました。

まず講演に先立ち、自己紹介の中で、現在 45 歳であり要介護者のお母さん（76 歳）の介護を 13 年していること、家事もほとんどやったことがなく、介護に関する知識も全くない状態で介護が始まり 6 年目で介護離職をしたこと、その後どんどん卑屈になり自分を見失い 30 歳代を過ごしたことの紹介がありました。その後「おひとり様介護」という書籍に出会い、また介護者の会で介護者の先輩に会うことで自分の人生が大きく好転したこと、「自分の大事な友達には私と同じ思いをしてほしくない」という気持ちから「働く介護者おひとり様介護ミーティング」を始めたこと等介護が始まり 13 年の流れの説明がありました。

和氣先生はご自身の介護経験や現在の介護者支援事業から、個人も企業も介護について「わからないことがわからない」状態であることが問題であり、介護は家族がやるものという先入観を捨て、介護をしながら働く世代のパイオニアとして、「働く介護者」という存在が十分に認知され、「介護をしながら働くことが当たり前の社会」をつくることをミッションとして活動していること、また、今日のセミナーのゴールを『介護の情報源になる！』とし、今の社会において「介護」を語ることは直接的な社会貢献になると力強く話されました。

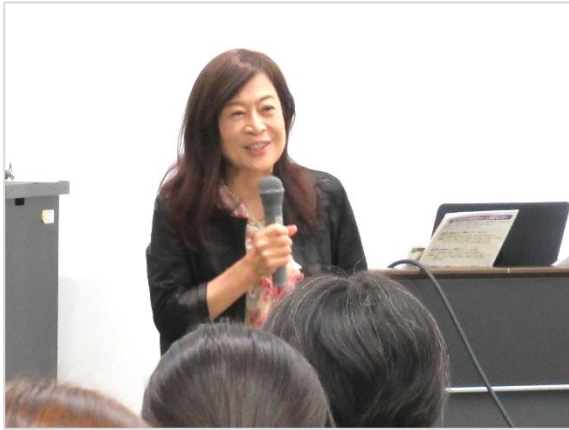


写真1. 伊東教授



写真2. 講師：和氣先生

次に、介護に関する言葉の説明したあと、介護は初動が一番つらいこと、しかし介護は初動が一番大事であること、介護離職した人の50%以上が介護が始まって1年以内であること、「まだ若いから関係ない」ではなく「介護」は一般教養として身に付けておくべき知識であることを述べられました。介護離職はしない方がいい理由として、精神面・肉体面・経済面ともに負担が増えることを挙げ、仕事と介護の両立策について説明されました。家族の介護について考えること事態が「愛のある介護」であること、「口は出すけど手は出さない・介護はプロに任せる・印鑑だけ押す」これも「愛」と「責任」のある介護であると力をこめて話されました。

続いて、相談については、上司や人事部への相談はハードルが高いこと、従業員は何を相談したらよいかわからないこと等から、相談を待つのではなく、支援制度の周知や家族に何かあったら報告してもらうような体制を作ることの必要性、また、介護について気になり始めたら全国各地にある地域包括支援センターへ行くことを繰り返し述べられました。



写真3、写真4. セミナーの様子

最後に、要介護者についての相談場所はあるが介護者の相談場所はないこと、専門職はエスパーではないため言葉に出さなければ誰も気付いてくれないこと、働く介護者は「自分の

意志」を自分で伝えることが大事であることを説明されました。介護離職をしないためのポイントは「自分と向き合う努力・知る努力・自分の気持ちを発信する努力が必要である」こと、介護のために仕事も人生もあきらめないことは自分の意志次第であること、介護者は誰からも守ってもらえないため「自分の人生を優先的に考えること」が何よりも重要であると締めくくられました。

3. ご挨拶（医歯薬学総合研究科 井口茂教授）

最後に、井口茂教授より、今日のセミナーで介護についての基本を学び、情報を集め、集めて発信することの大切さを痛感したとのお話がありました。昨年から実施している本学の取り組みでは、介護離職を防ぐこと、教育機関である大学で若い学生のみなさんに介護についての知識習得や情報発信してほしいと考えていること、地域とのつながりの中で、今後も介護者支援としてケアラズ交流会を継続して開催していくと締めくくられました。

第3回仕事と介護の両立ワークショップには、多くのみなさまにご参加いただきました。センタースタッフ一同、心よりお礼申し上げます。

アンケートでは「介護者としての自分をしっかり見つめて、自分の人生を考えることから始めたいと強く思った」「介護について若いうちに知ることができてよかった」「介護はマイナスというイメージだったが、プラスの面もたくさんあるとわかった」「戦う介護がわかってよかった。介護の道は長いけれど、とても明るく向かって行けそうです」など、気づきや学び、ご意見を多くいただきました。参加者の多くは本学学生でしたが、「今後のためにも、まだ関係ないと楽観視するのではなく、もう少し詳しく勉強しようと思った」「親に介護が必要となったときのために勉強して、よい環境で守ってあげたい」「今日の学びを母に教えたい」といった学生の声もありました。アンケートへご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

長崎大学ダイバーシティ推進センターは、来年度も仕事と介護の両立ワークショップを開催していく予定としております。今後ますます介護の課題を抱える人が増加することが確実視されているなか、家族の課題を抱える方や今後課題に直面する可能性のある全ての方々が介護の理解を深められるきっかけとなりますように、仕事と介護の両立支援に取り組んでまいります。